



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年7月24日

上場会社名 株式会社DNAチップ研究所 上場取引所 東
 コード番号 2397 URL <http://www.dna-chip.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 的場 亮
 問合せ先責任者 (役職名) 総務課長 (氏名) 大塚 勉 TEL (045) 500-5211
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
27年3月期第1四半期	27 △20.8	△75 —	△75 —	△75 —
26年3月期第1四半期	34 4.7	△53 —	△53 —	△53 —

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	△22.32	—
26年3月期第1四半期	△15.84	—

(注)当社は、平成25年10月1日付けで普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。
 前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	326	263	80.6
26年3月期	394	338	86.0

(参考)自己資本 27年3月期第1四半期 263百万円 26年3月期 338百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—				
27年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通期	440 26.1	2 —	2 —	1 —	0 30

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

②①以外の会計方針の変更 : 無

③会計上の見積りの変更 : 無

④修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

①期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	3,389,700株	26年3月期	3,389,700株
----------	------------	--------	------------

②期末自己株式数

27年3月期1Q	—株	26年3月期	—株
----------	----	--------	----

③期末平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	3,389,700株	26年3月期1Q	3,389,700株
----------	------------	----------	------------

(注)当社は、平成25年10月1日付けで普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数を記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表作成に関する注記	6
(四半期損益計算書関係)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間のわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和を背景に円安・株高で推移するとともに、輸出関連企業を中心に業績の改善の動きがみられました。一方で、消費税増税に伴う個人消費の影響や海外において新興国の経済成長の鈍化など、依然として先行き不透明な状況にあります。

このような状況下において当社は、目標を「研究開発から事業化への加速」と定め、研究受託事業メニューの充実と診断関連事業の強化により当事業年度末の営業損益の黒字化を目指しております。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は27百万円(前年同四半期比79.2%)となりました。利益面では、営業損失75百万円(前年同四半期53百万円)、経常損失75百万円(前年同四半期53百万円)、第1四半期純損失75百万円(前年同四半期53百万円)となりました。

なお、当第1四半期累計期間において、前年同四半期と比較して売上高は減少しておりますが、受注高はほぼ順調に推移しております。

事業部門別事業状況は次のとおりです。

【研究受託事業】

研究受託事業におきましては、大学や研究機関、製薬・食品会社等を主要な顧客としてとしてDNAチップ関連の解析や統計処理、カスタムチップの設計等を行っております。主要なサービスとして、受託サービスと診断サービスがあります。

i. 受託サービス

マイクロアレイを使用した受託解析サービスでは、製薬・食品会社等の顧客に積極的な提案型営業を行うとともに、大学病院、研究機関等の顧客には、きめ細かなフォローを推進し、新規サービスメニューの拡充を図っております。次世代シーケンス解析サービスでは、お客様との対話を重視し、データ解析とサポートに力を入れております。いずれのサービスにつきましても、他社との差別化を意識し、よりクオリティの高い内容を提供すべく取り組んでおります。

ii. 診断サービス

診断サービスにおきましては、「リウマチチェック」(関節リウマチの薬剤効果予測検査)の多剤効果予測及び「免疫年齢診断サービス」の拡充、「血中DNA変異測定サービス」(肺がん患者を対象とした組織由来DNA変異検出)のサービス開始に向けた準備を進めております。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は、26百万円(前年同四半期比78.6%)となりました。

【商品販売事業】

商品販売事業におきましては、DNAチップ解析を体験できるキットである「ハイブリ先生」を高校・大学に対して、iPad環境(その互換環境を含む)で稼動するソフトウェア・パッケージ製品「iRIS:関節リウマチ問診システム」を医療機関の関節リウマチの診察現場に対して、それぞれ受注拡大を推進しております。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は、1百万円(前年同四半期比96.5%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて70百万円減少し、303百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が59百万円減少したことなどによるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べて2百万円増加し、22百万円となりました。これは、固定資産の購入による増加4百万円や減価償却による減少2百万円などによるものです。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて67百万円減少し、326百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて7百万円増加し、60百万円となりました。これは、買掛金が5百万円増加したことなどによるものです。

固定負債は、前事業年度末に比べて増加し、2百万円となりましたが、金額は軽微であります。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて7百万円増加し、63百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて 75 百万円減少し、263 百万円となりました。これは、四半期純損失 75 百万円によるものです。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、当事業年度末の黒字化を目標に以下の取組みを実施しております。

(目標売上高の確保)

- ・受託サービスの強化及び大口顧客の充実
- ・診断サービスの強化及び新規サービスの拡充
- ・受注及び売上進捗管理の徹底

(コスト管理の徹底)

相見積りや価格交渉の実施等により物品購入価格の引下げ努力を行うとともに、経費削減施策等コスト管理を徹底しております。

上記の取組みにより当事業年度末の業績予想は、売上高 440 百万円、営業利益 2 百万円、経常利益 2 百万円、当期純利益 1 百万円を見込んでおります。なお、第 2 四半期業績予想につきましては、業績への影響を見定めている最中であり、現時点では公表しておりません。

※本資料における予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであります。予想に内在するさまざまな不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の業績と異なる場合がありますので、ご承知置きください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	226,135	200,827
受取手形及び売掛金	119,274	59,959
商品	4,937	4,937
仕掛品	11,267	20,348
貯蔵品	4,445	5,537
その他	7,540	11,748
流動資産合計	373,601	303,359
固定資産		
有形固定資産	18,726	21,241
無形固定資産	1,484	1,437
投資その他の資産	206	206
固定資産合計	20,417	22,885
資産合計	394,018	326,244
負債の部		
流動負債		
買掛金	21,866	27,372
その他	31,114	33,247
流動負債合計	52,981	60,620
固定負債		
引当金	2,300	2,548
固定負債合計	2,300	2,548
負債合計	55,281	63,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,116,368	1,116,368
資本剰余金	1,028,918	1,028,918
利益剰余金	△1,806,549	△1,882,210
株主資本合計	338,737	263,075
純資産合計	338,737	263,075
負債純資産合計	394,018	326,244

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	34,468	27,314
売上原価	49,707	52,717
売上総損失(△)	△15,239	△25,402
販売費及び一般管理費	38,187	50,011
営業損失(△)	△53,426	△75,414
営業外費用		
その他	4	0
営業外費用合計	4	0
経常損失(△)	△53,431	△75,414
特別損失		
その他	38	-
特別損失合計	38	-
税引前四半期純損失(△)	△53,470	△75,414
法人税、住民税及び事業税	237	246
法人税等合計	237	246
四半期純損失(△)	△53,707	△75,661

(3) 四半期財務諸表作成に関する注記

(四半期損益計算書関係)

前第1四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)及び当第1四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

売上高の季節的変動

当社は、事業の性質上、売上高が第2四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向があり、各四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	2,056千円	2,392千円

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	研究受託事業	商品販売事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	33,186	1,281	34,468
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	33,186	1,281	34,468
セグメント利益又は損失(△)	△15,707	467	△15,239

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△15,239
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△38,187
棚卸資産の調整額	—
四半期損益計算書の営業損失(△)	△53,426

(注)全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	研究受託事業	商品販売事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	26,076	1,237	27,314
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	26,076	1,237	27,314
セグメント利益又は損失(△)	△25,836	433	△25,402

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△25,402
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△50,011
棚卸資産の調整額	—
四半期損益計算書の営業損失(△)	△75,414

(注)全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。